

人工膝関節置換術後のアイシングの有用性について

12階北病棟

発表者○武田季詩子

村山 真美 羽田麻梨実 土井亜紀子

岩永美世子

【目的】

人工膝関節置換術（以下TKAとする）を受けた患者は、創部の腫脹、熱感を伴う。とくに屈伸器やリハビリテーション後に自覚症状を有する患者が少なくない。その際の対応として、当病棟では適宜患部周囲をアイシングしていたが、心地よさなどの患者の主観以外に、アイシングの効果は検証してこなかった。そのため、アイシングによって疼痛・腫脹の軽減および膝関節屈曲角度の回復につながるかを明らかにすることを目的とした。

【方法】

12階北病棟で、平成24年4月～10月の間に同意が得られたTKAを施行する患者を対象とした。アイシングを施行しない群（Ⅰ群）、する群（Ⅱ群）の2群を無作為に分類し、①膝の周囲径（腫脹）、②膝の屈曲角度、③VASスケール、④手術日から退院までの日数について調査を行った。また、アイシング施行の基準は、術後4日目から1日3回と定め実施した。

【内容】

Ⅰ群6名、Ⅱ群7名に対し調査を実施。アイシングを開始する術後4日目、7日目、13日目での膝周囲径、屈曲角度についてマンホイットニー検定を用いた。対象者が少なく両者間に統計学的有意差は出なかったが、アイシングにより、腫脹、屈曲角度に改善傾向がみられた。VASスケールに関しては改善量を比較したところ、Ⅰ群の方が改善量が大きい傾向にあったが、統計学的有意差は認めなかった。手術日から退院までの日数は、DVT発症が2例あったⅠ群の方で長くなったが、DVT発症を除くと両者間でほぼ差はなかった。

【今後の活動】

引き続き調査を継続し、対象者を増やしたうえで再度検証していく。VASスケールは活動状況によって患者の評価にばらつきがみられたため、安静時、体動時で確認するなど、統一した評価ができるよう検討したい。また、DVT発症についても注目し調査項目を整理したうえで、DVTを含めた合併症の発症頻度についても検討を要すると考える。

人工膝関節置換術後の アイシングの有用性について

12階北病棟
武田 季詩子

はじめに

- ▶ 当病棟では人工膝関節置換術(以下TKAとする)を受けた患者に対し、適宜患部周囲をアイシングしていた。
- ▶ しかし、アイシングの効果は検証してこなかった。

目的

- ▶ アイシングによって疼痛・腫脹の軽減および膝関節屈曲角度の回復につながるかを明らかにする。

対象および方法

＜＜対象＞＞
平成24年4月～10月の間に同意が得られた TKAを施行した患者。

＜＜方法＞＞
対象患者を以下の2群に無作為に分類し、各種調査項目について2群間で比較、検討する。

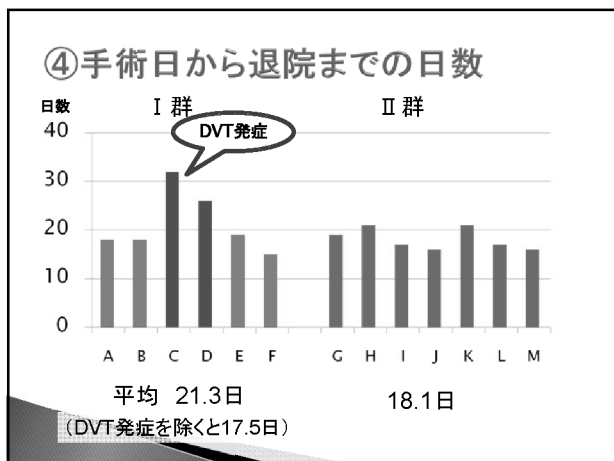
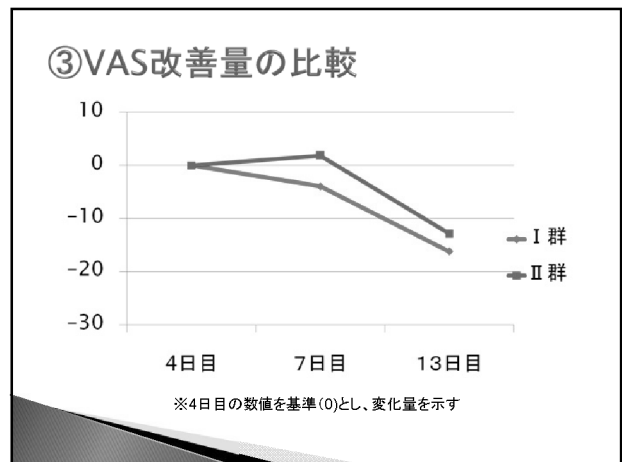
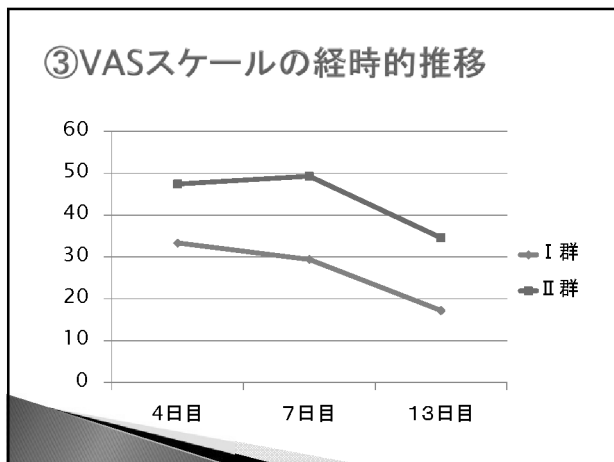
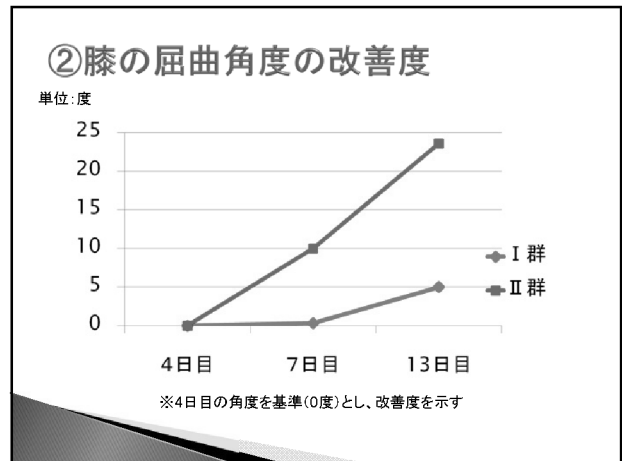
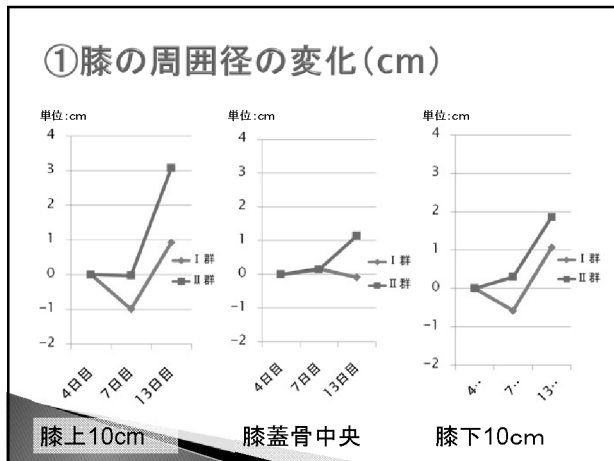
	アイシング	人数	男女比
I 群	施行しない	6名	男:女=2:4
II 群	施行する	7名	男:女=1:6

※アイシング施行の基準は、術後4日目から1日3回と定め実施する。

調査項目

- ①膝の周囲径(腫脹)
- ②膝の屈曲角度
- ③VASスケール
- ④手術日から退院までの日数

結果



考察

- ①周囲径はⅡ群で改善傾向であった。
- ②屈曲角度はⅡ群で改善傾向であった。
- ③VASスケールはⅠ群の方が数値が低いが、個人の評価にばらつきがあった。
- ④DVT発症により、在院日数に影響が出た。

結語

- ▶ 石村雅男ほか(1999年):TKA後のアイシングに有意な腫脹軽減の効果
- ▶ 本研究においては症例数が少なく、現段階では統計学的有意差は認められないが、アイシングにより腫脹、屈曲角度に改善傾向がみられた。

まとめ

- ▶ 引き続き調査を継続し、症例数を増やしたうえで再度検証していく。
- ▶ VASスケールは活動状況によって患者の評価にばらつきがみられたため、安静時、体動時で確認するなど、統一した評価ができるよう検討する。
- ▶ DVT発症についても注目し、調査項目を整理したうえで再度調査を再開したい。

文献

- 1)川口拓也:整形外科看護 2009秋季増刊、104-105、2009.
- 2)藤池美穂、山本節子:人工膝関節全置換術後患者の創腫脹に対するの看護アプローチを試みて、日本リハビリテーション看護学会学術大会集録19回、66-68、2007
- 3)岩田里見他:人工膝関節全置換術後患部の熱感の持続期間の調査、日本整形外科看護研究会誌2巻、46-49、2007
- 4)石井雅男他:人工膝関節全置換術後におけるクライオセラピーの有用性、臨整外、34、1341-1345、1999

研究協力者

- ▶ 整形外科
小林正明医師
野崎正浩医師
- ▶ リハビリテーション部
村松直子理学療法士